

# 練学歯だより

No.23

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2018年3月発行

## 目 次

- p.1 ..... ご挨拶  
練馬区学校歯科医会会长 草柳 英二
- p.2 ..... 第52回東京都学校歯科保健大会  
ポスター発表 練馬区学校歯科医会学術委員会
- p.4 ..... 平成29年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」  
河奈 文彦
- p.5 ..... 第68回関東甲信越静学校保健大会に参加して  
都立田柄高等学校 水野 重美
- p.6 ..... 平成29年度全国学校保健安全研究大会  
練馬区立豊玉第二小学校 古田 裕司
- p.7 ..... 第81回全国学校歯科保健研究大会  
練馬区立旭丘小学校 沼口 隆二
- p.8 ..... 平成29年度練馬区立小学校長・中学校長との  
研修協議会 佐藤 和典
- p.9 ..... 新入会員の声  
練馬区立大泉学園緑小学校 脇田 あき
- p.10 ..... 西連寺愛憲元日学歯会長を偲んで  
草柳 英二  
望月 兵衛  
佐藤 貞彦

# 会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

日頃より、本会事業の推進運営に多々ご協力を賜り、御礼申し上げます。本年は、練馬区歯科医師会が昭和22年に設立されて以来70周年をむかえました。その後練馬区学校歯科医会も、昭和30年に練馬区歯科医師会から独立、第1回目の定時総会が開催され設立となりました。以来それから本年まで約64年もの歴史をもつ都内でも由緒ある学校歯科医会の組織に成長し、会員一同喜ばしい限りです。これも先輩諸氏の絶え間ない努力の賜物と感謝しております。本会は、練馬区教育委員会と協力し昭和30年頃には練馬区の児童・生徒の口腔の健康を改善するために「むし歯半減運動推進事業」を中心に練馬区の小・中学校等の学校保健に尽力を注ぎ、半世紀にも及び区内の児童・生徒の「歯と口の健康」に大きな成果がえられました。引き継ぎ現在では「児童・生徒の歯と口の健康事業」と改名して練馬区教育委員会と連携を保ち、学校保健に関する多くの業務を展開し遂行しております。春・秋の健康歯科健診、就学時健診はもとより、教育委員会と小学校・中学校校長会と学校歯科医会との研修協議会では三者間の親睦を深め好評を博しております。また全国学校歯科保健研究大会・全国学校保健安全研究大会・東京都学校歯科保健研究大会、練馬区学校保健大会等には毎年積極的に参加しております。「給食後の歯みがき運動」を教育委員会と共に前面に推奨し、「歯垢染色」・「学校保健と給食後の歯みがきのアンケート調査」・「給食後の歯みがきと歯肉炎について」・「特別支援学級のアンケート調査」等を学術委員会を中心に調査・研究を行い東京都学校歯科保健研究大会等に発表し、尚かつ今後日本学校歯科医会・東京都学校歯科医会の冊子にも掲載する予定であります。また平成28年4月に立ち上げたホームページも順調に推移し、組織の業績・宣伝・新情報の更新に力を注いでおります。またHP委員会では、歯科のQ & A・図画ポスター入賞作品・作文コンクール入賞作品等も掲載・更新しておりますのでどうぞご覧ください。

私たち練馬区学校歯科医会は、今後も練馬区の児童・生徒の「歯と口の健康」を堅持するために学校歯科医の活動指針を基本に学校歯科保健活動に尽力を注ぎたいと願っておりますので、皆様方のご指導・ご鞭撻をお願い申しあげます。

# 第52回東京都学校歯科保健研究大会ポスター発表



練馬区学校歯科医会学術委員会

○西村滋美 生田剛史 石塚 亨 瓦井 徹 郷家英二  
宮本一世 西 克昌 古田裕司 南 誠二 名古谷昌宏  
草柳英二

## 特別支援学級の教職員アンケート調査の報告

### ～児童・生徒の口の健康と食習慣について～

西村 滋美、生田 剛史、石塚 亨、瓦井 徹、郷家 英二、  
宮本 一世、西 克昌、古田 裕司、南 誠二、名古谷 昌宏、  
草柳 英二

練馬区学校歯科医会学術委員会

#### はじめに

特別な支援を要する児童・生徒にとって、歯と口の健康づくりは、生涯にわたる身体全体の健康づくりの基礎として重要な意味をもっている。

今後の指導・教育の充実に役立てるため、平成27年に、区内の小・中学校の保護者に対してアンケート調査を行いその結果を報告した。練馬区学校歯科医会は歯・口の健康維持や食育に関して、特に早い時期から支援が必要とされる特別支援学級の児童・生徒の現況を把握し、今回歯科保健指導・教育のさらなる連携を図るために、学校担任と学校歯科医に対してアンケート調査を行ったので報告する。

#### 対象および方法

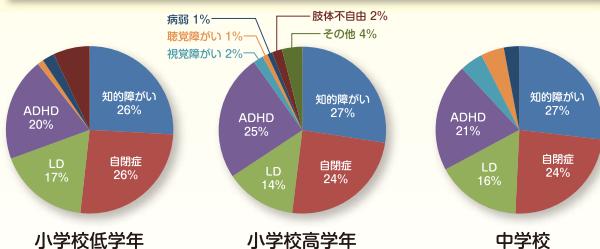
練馬区内の特別支援学級設置校（知的障害学級、情緒障害学級、言語障害学級、難聴学級、弱視学級）および特別支援教室のある小・中学校39校の教職員と学校歯科医に対してアンケート調査を行った。

なお、小学校は1～3年を低学年、4～6年を高学年に分けて集計を行った。

#### I. 教職員へのアンケート内容

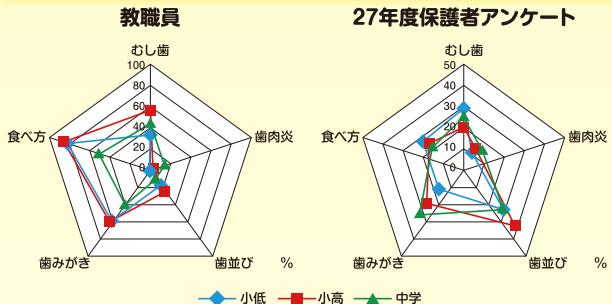
- 児童・生徒の心身の状況
- 児童・生徒の口の健康について気になることはあるか
- 給食後の歯みがきは行っているか
- 児童・生徒の後みがきは行っているか
- 給食の食べ方で気になることはあるか

#### 児童・生徒の心身の状況



児童・生徒の心身の状況は、小学校低学年、高学年、中学校とも知的障害がい、自閉症、学習障がい、注意欠陥障がい・多動性障がいの順に多かつた。

#### 児童・生徒の口の健康で気になること



平成27年度に行った保護者アンケートと比較したところ教職員は小学校低学年、高学年、中学校とも同じような傾向となり、食べ方、歯みがき、むし歯、歯並びの順に多くなっていた。

特に、小学校低学年、高学年では“食べ方”が気になるが多く、永久歯への交換時期である小学校高学年では“歯並び”が気になるが多く、中学校では“歯肉炎”が他に時期に比べやや多かった。

保護者アンケートでは、歯並び、歯みがき、むし歯、食べ方の順に多く、教職員との気になることとは異なっていた。

#### 給食後の歯みがきおよび後みがきについて

\*児童・生徒が給食後の歯みがきを行っている

小学校低学年	95%
小学校高学年	60%
中学校	97%

\*教職員が児童・生徒の後みがきを行っている

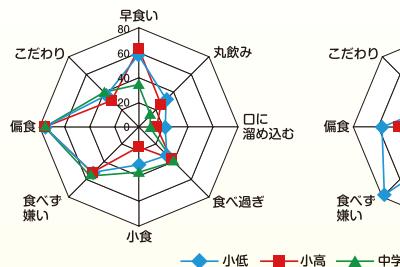
小学校低学年	5%
小学校高学年	7%
中学校	5%

給食後の歯みがきは小学校低学年と中学校では90%以上でほぼ行われていたが、後みがきや歯みがき指導までは、時間割の都合上、限られた給食時間、昼休み時間内では、あまり行えていない状況と思われた。



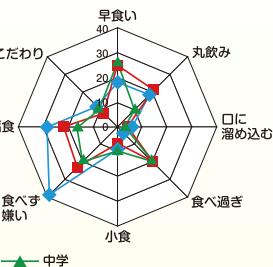
## 給食の食べ方で気になること

### 教職員アンケート



小 低／①偏食②早食い③食べず嫌い④丸飲み  
小 高／①偏食②早食い③食べず嫌い④食べ過ぎ  
中学校／①偏食②食べず嫌い③食べ過ぎ④こだわり

### 27年度保護者アンケート



小 低／①食べず嫌い②偏食③早食い④丸飲み  
小 高／①早食い②食べず嫌い③偏食④丸飲み  
中学校／①早食い②食べ過ぎ③食べず嫌い④偏食

教職員アンケートでは、小学校では早食いが多い傾向にあったため、特に窒息事故防止のためにも、給食時の見守りが必要と思われた。また、気になることのコメントとして、特に小学生で姿勢や食べ方のマナー面についての記載が多く見られたため低学年からの指導が大切と思われた。

保護者アンケートでも食べず嫌い、偏食は多い傾向があったが、早食い、丸飲みが気になる割合も多かったため、家庭でも窒息事故防止のため見守りが必要と思われた。

食べ方に関しては、障がいの特性を理解して、個々に応じた対応が求められる。

## 意見・要望

### 《小学校低学年》

- ・あごの問題からなのか、口をうまく閉じきれなかったり、注意力の問題でスプーンから目をそらしてしまったりする子がいます。
- ・時間割の都合上、歯みがき指導まで手を回していくのが現状です。

### 《中学校》

- ・ダウン症児の麺類、穀類の摂取の仕方を改善するにはどうしたらいいでしょうか。ダウン症のお子さんは炭水化物を好み、白米やパスタを際限なく食べていることが多いです。

## II.学校歯科医へのアンケート

対象者：練馬区内の特別支援学級設置校の学校歯科医

### 【アンケート回収率】

84% (39名中33名回答)

### 【アンケート内容】

1. 口腔衛生指導・歯科講話等を行っているか
2. 対応・口腔管理等について気になることがあるか
3. 研修会の必要性を感じるか

### 1. 口腔衛生指導・歯科講話等を行っているか

行っている 11名  
行っていない 23名

### 【具体的な方法】

- ・歯科講話（パワーポイント等使用することあり）
- ・歯垢染色液で、ブラークの染め出しをしてブラッシング指導
- ・給食後の歯みがきの推奨
- ・RDテスト等
- ・全校生徒と一緒に実施している

## 2. 対応・口腔管理等について気になることがあるか

### 《コメント 抜粋》

- 普通学級の生徒と比較すると、口腔清掃状態は悪いと感じている。
- 気になる口腔内の子は少ない（同様内容3件）
- 最近はほとんどカリエスは減った。歯肉炎は見られる。
- 学内に特別支援学級があるとはわからなかった。歯科健診でもクラス名を言われていたため、特に気づかなかつた：（同様内容4件）
- 歯科衛生士等による、きめ細かい指導が必要と思う。
- ほとんどの子ども達はかかりつけ医をもっているため管理はある程度できていると思う。

## 3. 研修会の必要性を感じるか

### ・研修会必要 44% (34名中15名)

研修対象の希望：  
学校歯科医  
保護者に対して  
児童・生徒に対して  
教職員に対して

### 《コメント 抜粋》

- 生徒や保護者の学校歯科医に対する要望を知りたい
- 全般的に口腔内の清掃状況は良くない方が多いため特別な良い対策があるのであれば、研修会等も意義があると思う
- 保護者対象として研修会もやったほうが良い
- 区（保健所）が行う2年に1度の保健指導を特別支援学級にも行ってほしい。
- 児童・生徒の状態の詳しい説明も無いので、特別な指導はしていない。どの程度理解してくれているのか不明。
- 児童・生徒ではなく、先生・保護者に指導した方が効果的と思う。

## まとめ

1. 児童・生徒の口の健康に関しては、教職員は食べ方を中心に気にしており、歯みがきに関しても時間的に手が回らない等の記載もあった。今後は本人の自立を促すためにも、学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導や研修会の実施、さらには個々の障がいの状況や発達の程度に応じた口腔衛生指導の必要性が示唆された。

2. 給食の食べ方では、偏食、食べず嫌い、早食いがどの学年でも見られたため、特にこだわりが強い児童・生徒への教職員の日々の対応の困難さがうかがえた。記載が多かった姿勢やマナー面の改善も家庭と協力して早い時期から指導していくことが必要と思われた。早食いに関しても窒息を招きやすい食べ方であるため、給食時の見守りのみならず、家庭での食事の時も保護者の援助が必要と思われた。

## 結論

特別な支援を要する児童・生徒の歯・口の健康づくりに際しては、児童・生徒本人の自立を促すためにも、保護者、担任、養護教諭、学校歯科医、かかりつけ歯科医などが連携をとり、多方面からの支援を検討、実施していくことが重要である。

そして、それを実現するための積極的な支援が学校歯科医会の責務であり、今後も調査・研究を継続していく所存である。

ご質問、ご意見は練馬区学校歯科医会の方にお願いします。

[www.nerigakushi.tokyo](http://www.nerigakushi.tokyo)

## 平成29年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」

田柄中学校 河奈 文彦

平成29年6月24日(土)13時30分から練馬区役所に於いて平成29年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」が開催されました。

昨年度の3歳児歯科健康診断で歯と口の健康状態が良かったお子さんとご家族の方も同様なファミリーを表彰する「歯(ハ)ートファミリーコンクール」の表彰式と練馬区内の小学生から応募が有った図画、ポスターから優秀な作品を表彰する「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」の表彰式が行われました。

表彰式終了後練馬区公式アニメキャラクター「ねり丸」と記念写真の撮影が行われました。



前川練馬区長の挨拶



練馬区歯科医師会市川会長と受彰者



「ねり丸」と記念撮影



受彰者と司会

## 第68回関東甲信越静学校保健大会に参加して

都立田柄高等学校 水野 重美

8月10日に関東甲信越静学校保健大会が、山梨県甲府市で開催されました。当日午前中つづじ歯科協力医の当番にあたっていたため、午後からの歯科職域部会のみの参加となりました。

山梨県歯科医師会副会長金山昇先生の開会で始まり、山梨県歯科医師会会长三森幹夫先生の挨拶、来賓の山梨県福祉保健部長、山梨県教育委員会教育委員、日本学校歯科医会副会長の挨拶と続き講演となりました。

講師は東京歯科大学老年歯科補綴学講座の准教授上田貴之先生でした。演題は「高齢者の口腔機能低下の評価とその対応」というもので、学校歯科とどういう関連があるのかと興味深く聞く事が出来ました。これから超高齢化が進んでゆくなかで、高齢者の口腔機能低下にどの様に対応していったら良いのか？日本老年歯科医学会が公表した口腔機能低下症の定義と診断基準に関して説明がありました。

診断検査項目は、口腔不潔、口腔乾燥、咬合力低下、舌、口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下の検査を行い、3項目以上該当するものがあれば「口腔機能低下症」と診断するとの事でした。

内容は学校歯科と直接関係するものではありませんでしたが、良い講演だったようと思われます。いつまでも口腔機能を維持していく為に、若いうちからの正しい食事の摂り方や食材の選び方などを学習して、健康な生涯を過して欲しいものだと思いました。

次期開催県の群馬県歯科医師会会长の村山利之先生の挨拶があり、山梨県歯科医師会副会長吉田英二先生の閉会の辞で盛会のうちに終了しました。

練馬区学校歯科医会からは、会長、理事の先生と一会员の私との計6名が出席しました。



## 平成29年度全国学校保健安全研究大会に参加して

豊玉第二小学校 古田 裕司

平成29年11月16日と17日に、三重県の県庁所在地である津市の三重県総合文化センターにて標記大会が開催されました。

三重県は伊勢志摩国立公園、鈴鹿サーキット、松坂牛、伊賀忍者、ミキモト真珠、赤福餅、

熊野古道などで有名な観光県でもあります。

本会より石神井西小の草柳英二会長と私古田が参加しました。

また、東京都学校歯科医会役員として、練馬の光が丘秋の陽小の箭本治先生、泉新小の金田和彦先生、豊中の山室直子先生も参加されました。

第一日目は開会式があり、表彰式の中で、文部科学大臣表彰を受けた48名の歯科医師をはじめとする各種表彰者が紹介されました。

その後、東京学芸大学教育学部教授渡邊正樹先生による記念講演がありました。

講演終了後、場所を多目的ホールに移し、第67回全国学校歯科医協議会が行われました。ここでも大臣表彰の先生方が顕彰され、さらに、子ども虐待防止歯科研究会副会長森岡俊介先生、三重県歯科医師会副会長羽根根司人先生より講演が行われました。

ちなみに森岡先生は草柳先生の大学同級生です。閉会後、懇親会となり各地区の情報等を交換し合い大変有意義な時間を過ごせました。

第二日目は、午前中の5課題と午後の5課題の計10課題に分かれての研究協議会でした。この研究協議会は、3名の研究発表者が発表を行なった後、講師とコーディネーターが助言し、さらに会場からの意見を交えて議論していくものです。

午前は第2課題の保健管理に参加いたしました。養護の先生が中心となり、校内でのアレルギー対処、感染症発生時の対応などが議論されました。

午後の第5課題は歯と口の健康づくりです。まずは3人の養護の先生と1人の校長先生が発表されました。さらに講師の日本歯科大衛生学教授の福田雅臣先生とコーディネーターの東京都教育庁歯科保健担当課長山田善裕先生が助言をされました。

それから会場からの意見も交え活発な議論が行なわれました。そしてすべての日程が終了し、熱気のこもった学会も閉会となりました。

次回は平成30年10月25日26日に鹿児島県鹿児島市にて開催され、同時に第68回全国学校歯科医協議会も開催されます。

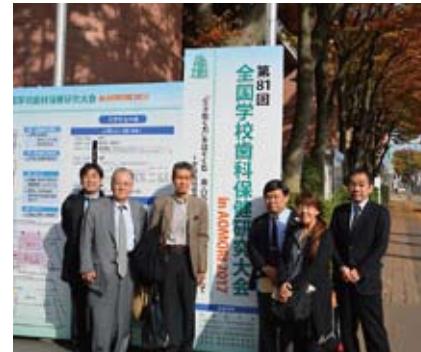
もしよろしければ練馬区学校歯科医会の先生方も奮ってご参加下さい。



## 第81回 全国学校歯科保健研究大会(青森)に参加して

旭丘小学校 沼口 隆二

シンポジウムでは「口腔機能の健全育成を求めて」のねらいというタイトルでスタートした。内容を要約すると、離乳期になって、親の都合で子どもが自分で食べると時間がかかるので、早く食べさせようとスプーンを奥まで入れて、無理に量を与えてしまう。子どもはいつまでも口に入れているか、飲み込んでしまうか、口から出してしまうという行動に出る。本来はスプーンは下の前歯に当たるところで止めると、前歯を使うことを覚えてくる。ストローを使ったコップ（ストローマグ）は舌の奥を使い前を使わないので口の入り口を使った食べ方を教えることも必要。最近は体を使って外で遊ぶ子どもが少なく筋肉が弱い。ブクブクうがいもできない。口腔機能にあった食事の仕方を考えなければならない。



また、学校保健では永久歯との交換期の個人差があることも考慮に入れなくてはならない。歯の萌出と咽頭の大きさは相関性があり、側方歯群の未完成期は咀嚼力が落ち、1年生くらいの咀嚼力になってしまう。そこも考慮して、食事（給食）の時間がかかるので、急がせたりしないことが肝心。

小学校部会では二つの小学校の取り組みが発表された。長野県諏訪市立四賀小学校では DMFT が平成 20 年の 0.38 に対し、平成 29 年には 0.12 と青森県三沢市立上久保小学校のそれは平成 14 年が 0.95 に対し平成 28 年は 0.23 という驚異的な数値を達成している。12 歳児の DMFT は 1.0 以下に落ち着いてきているが、中学高校と 20 歳になる頃までにその値は上がってくる。また、健診時にむし歯は少なくなってきたが、MHI(Molar-Incisor Hypomineralization) 形成不全の歯がみられる。この部位はむし歯になりやすいので、注意が必要である。原因は不明だが、地域差や ViD 不足が考えられる。食事から摂取できる ViD も人工乳には入っているが、母乳はない。また、日光浴で皮膚で生成されるが、日本では日傘が多用されたり、UV カットの化粧品を使うことで、生成されなくなっていると考えられる。しかしこの相関性を立証するものは今はない。

いつまで親が歯磨きのチェックをしてあげたらいいのかという親からの質問に対しては、細かい作業ができるようになるまではチェックしてもらいたいということで、塗り絵を例にあげていた。

塗り絵に色をつけるときにはみ出さないようになるまではチェックしてあげてもらいたい。

最後に隣接面う蝕の原因となるおやつにブッチョとハイチューをあげていた。内容豊富だったのですが、私にとってのトピックスを書き連ねたので、とりとめもない報告になったことを謝ります。

# 平成29年度 練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会

光が丘第二中学校 佐藤 和典

練馬区立小学校長、中学校長との研修協議会が、練馬区教育委員会の方々の出席のもと 9月28日及び10月12日に開催されました。

この会は校長と教育委員会、学校歯科医が直接懇親することで、忌憚のない意見を述べ、お互いの信頼関係を強化し、今後の学校歯科保健の向上に役立てる有意義な会で都内では 練馬区のみで行われています。

## 小学校長の研修会では

演題1 練馬区教育委員会における学校保健の取り組み

練馬区教育委員会 竹内 康雄課長

演題2 給食後の歯みがきの取り組み

大泉第一小学校 学校歯科医 望月 兵衛会員

## 中学校長との研修会では

演題1 練馬区教育委員会における学校保健の取り組み

練馬区教育委員会 竹内 康雄課長

演題2 中学校の特別支援学級アンケート結果について

学術委員会 西村 滋美副委員長

以上の講演が開催され参加者の研修が行われました。



挨拶をする草柳英二会長



懇談中の先生方

## 学校歯科医に就任して

練馬区立大泉学園緑小学校 脇田 あき

平成29年度より学校歯科医に就任いたしました  
脇田あきと申します。

これまで保育園の担当でしたので、小学校の規模  
の大きさにも驚いています。

また、この年齢の子供たちは体の成長・変化がも  
のすごく大きく、自分でも戸惑う事も多いのではないか  
いでしょうか。

検診を実際に行ってみて思うことは、虫歯の無い子と多い子の両極に分かれてい  
る、そして虫歯の有無にかかわらずブラッシングが不足している子が多い、という点  
が気になりました。

この年頃に身についた習慣が一生続く事も多いのではないかと思われます。生涯  
を支えるのか末代まで祟るか、重要な時期なのだと改めて感じた次第です。

自分自身の小学校時代を思い返してみても、実の所あまり先生の言う事を聞いて  
いない子でした。これからはその子供達に色々と指導する立場になり、責任の重さ  
を痛感してます。

今後、諸先生方の御指導の元、頑張っていく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し  
上げます。



## 訃報

一般社団法人東京都学校歯科医会名誉会長 西連寺愛憲先生



西連寺愛憲先生のご不幸に対し、謹んでご弔意を呈し哀悼の意を表します。

西連寺愛憲先生は、平成29年9月26日に享年91歳でご逝去されました。

先生は、日本大学専門部歯学部を昭和23年3月に卒業され、昭和27年に東京都練馬区向山に西連寺歯科医院を開業、昭和35年に練馬区立向山小学校学校歯科医を委嘱されて以来55年間にわたり学校歯科医として学校保健活動にご尽力されました。昭和48年に練馬区学校歯科医会会长と練馬区児童生徒むし歯半減運動推進本部長に就任、平成7年まで長期にわたり務められました。その間、藍綬褒章・文部大臣表彰の数々を受章されました。

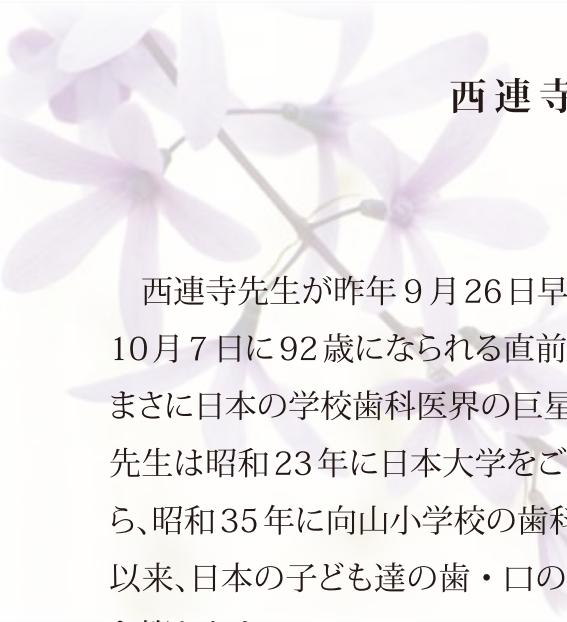
また先生は、平成2年より東京都学校歯科医会会长を平成18年まで16年間努められました。

平成7年から平成16年まで日本学校歯科医会会长をも長期にわたり務められ、日本全国の会員25,000人の主導者として、また首都東京の長として、児童・生徒の歯・口における健康推進のために奔走し、後進の指導に尽力され、今日の学校歯科医会を確立されました。

東京都学校歯科医会名誉会員、日本学校歯科医会名誉会長として現在まで就かれ、平成18年には瑞宝小綬章受章の栄に浴されました。

「西連寺先生のご生前の功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。」

練馬区学校歯科医会会长 草柳 英二



## 西連寺愛憲先生を偲んで

大泉第一小学校 望月 兵衛

西連寺先生が昨年9月26日早朝にご逝去された。

10月7日に92歳になられる直前の訃報だった。

まさに日本の学校歯科医界の巨星擊つの感であった。

先生は昭和23年に日本大学をご卒業になった後、現在の練馬区向山で開業する傍ら、昭和35年に向山小学校の歯科校医になられた。

以来、日本の子ども達の歯・口の健康づくりに取組まれ、学校歯科保健活動の基礎を築かれた。

先生のライフワークとなった取組のきっかけは当時の児童、生徒のむし歯の多さだった。

DMFTが統計を始めた昭和59年が4.75であったので昭和30年代では想像を絶する値だったと思う。

むし歯の減少には組織として統一的な学校への提言が必要と考えられ練馬区学校歯科医会、東京都及び日本学校歯科医会などのリーダーとなり、現在日本各地で行われている学校歯科活動を行政の方々にも理解してもらう様働きかけた。

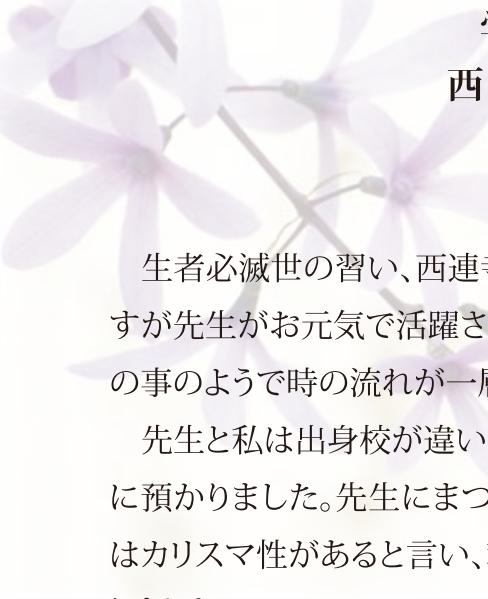
一例をあげると、練学歯において今も行なわれて巡回指導、小中学校長会、よい歯の児童表彰、練馬区からの補助金収入などの事業活動である。

又、全国規模の学校歯科保健大会や協議会に大学から教育者を呼び、学校歯科保健を学問の領域まで高めたことも西連寺愛憲先生の功績である。

その頃、私は地域医療に関しての本会の仕事が多く学校歯科に関しては殆ど判らなかったのだが何故か先生に目をかけていただき練学歯・日学歯などで多岐にわたり教えを乞うた。

先生は遊びもこれまた大好きで酔うと沖縄の唄を歌い波乱に満ちた人生、武勇伝などを何度も聞かされ殆ど覚えてしまった。

白寿のお祝いは当然のことと思っていたので大いに心残りであるが天国で先生の蘊蓄を楽しみにしている。



## 学校歯科保健の泰斗 西連寺愛憲先生を偲んで

練馬区学校歯科医会元会長 佐藤 貞彦

生者必滅世の習い、西連寺先生が昨年9月御逝去されました。諸行無常と言いますが先生がお元気で活躍されていた時代が走馬灯のように思い出され、ついこの前の事のようで時の流れが一層に速く感じられます。

先生と私は出身校が違い同窓関係ではありませんが約25年に亘り大変な御交誼に預かりました。先生にまつわる伝説的な話は沢山あり、或る先生は西連寺先生にはカリスマ性があると言い、私もお付き合いを頂くなかでそのように思う事が間間ありました。

日学歯、都学歯、練学歯の会長をそれぞれ何期にも渡って務められ、特に平成7年から4年間は練歯本会の会長も、まさに前代未聞。

日学歯と都学歯は同じ会館ですが練馬は遠く離れています。いくら超人的に活躍されておられる先生でも一体どうなるのか、と当時監事を仰せ付かっていた私として気になりましたが、それは杞憂でした。望月兵衛先生が練歯本会の専務理事として、言わば国家老として会長の西連寺先生をしっかり支えていた事が大きかったと思います。

会務運営で時には強引さもありましたが気配りの先生でもありました。確かに西連寺先生を敬遠する方々もおりました。日学歯全国大会での懇親会では若い会員が西連寺先生を取り囲んで談笑している光景がよく見られたものです。気配りや優しさで会員に接し、特に若い会員には人気があったと思います。

25年間に亘って頂いた御交誼で学校歯科保健については勿論のこと、多くの事について教えて頂きました。

西連寺愛憲先生ありがとうございました。

心から御礼を申し上げ、今は唯安らかにお休み下さいますことを願っております。

智積院良医愛憲清居士 合掌

SUNSTAR

# 増えつづける 大人のう蝕を防ぐ!

New



サンスター史上  
最大濃度フッ素 1450ppm配合



## 大人のためのう蝕予防ハミガキ

BUTLER<sup>®</sup>

バトラー デンタルケアペースト

医薬部外品 薬用ハミガキ

販売名：バトラー薬用ハミガキD

【内容量】70g 【香味】ハーブミントタイプ 【患者様希望価格】1本500円(税抜価格) \*6歳未満のお子さまへのご使用はお控えください。

商品についてのご質問・ご不明な点は下記へお問い合わせください。

サンスター株式会社 〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号 TEL./072-682-4733 FAX./072-684-5669

④登録商標。BUTLER<sup>®</sup>は登録商標です。

### 編集後記

前任者の名古谷副会長及び草柳会長のご指南のおかげで、「練学歯だより」NO23をやっと発行することが出来ました。広報担当理事を引き受けさせていただいたのが初めてでしたので大変でした。お忙しい中、投稿を快くお引き受けいただいた諸先生には感謝申し上げます。また、ご指導、ご協力をいただいた練学歯理事及び練学歯学術委員会の先生方には深く御礼申し上げます。来年もNO24を発行予定ですので、練馬区学校歯科医の先生方の御協力をよろしくお願ひいたします。

佐藤和典

第81回全国学校歯科保健研究大会・H29年度全国学校保健安全研究大会に参加、毎年多くの良き学校保健事項を学びます。会員の先生方、練馬だけでなく全国大会に参加しましょう。我々の恩師「西連寺愛憲先生」が他界されました。多くの練学歯会員を育て、また日学歯・都学歯の役員として送り出し、それぞれ羽ばたき、大きく成長しました。現在の学校歯科保健の礎をしっかりと築き上げられました。残念至極、西連寺先生のお声・笑顔・優しさ等が今でも目頭を押さえるようです。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

草柳英二

練馬区学校歯科医会ホームページ  
<http://www.nerigakushi.tokyo>

発行日 平成30年3月13日  
発行 練馬区学校歯科医会  
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13  
TEL 3557-0045㈹  
FAX 3557-3553  
発行人 草柳英二  
担当理事 佐藤和典  
印刷所 有限会社 かどや印刷  
〒177-0042 東京都練馬区下石神井5-1-37  
TEL 3997-0370  
FAX 3995-0594